

INFORMATION

No. 1307-22

新規受託のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、下記の項目につきまして、新規受託を開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

敬具

記

■検査要項

コード	検査項目名	採取容器	検体/ 検体量(保存)	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 [判断料区分]
4161	HPV-DNA簡易 ジェノタイプ判定	SurePath 専用容器	LBC用採取液 /2.0ml(冷蔵)	リアルタイム PCR法	(-)	4日～ 8日	360点 [微生物学的]

備考

- ※1 本検査では16型、18型の型別判定を行います。その他、66型を含む12種類の高リスク型HPV(31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66及び68型)に関しては遺伝子同定(型別判定は出来ません)を行います。
- ※2 子宮頸部細胞診の結果、ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者に対してHPV検査を行った場合に限り、「HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)」を算定できます。
- ※3 細胞診と同時に実施した場合は算定できません。また、「HPV核酸検出」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
- ※4 当該検査は、HPV核酸検出の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できます。
- ※5 必ず単独検体で提出し、細胞診との併用は避けて下さい。

(容器写真等裏面参照)

■受託開始期日

平成25年 8月 1日(木) より受託開始

株式会社 武蔵臨床検査所

* お問い合わせは当社または担当者までお願いいたします。

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 04-2964-2621 FAX 04-2964-6659
URL <http://www.e-musashi.co.jp>

■HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定

子宮頸がんは、高リスク型HPVの持続感染が原因となって発症するとされ、定期的な検査で未然に防ぐことができるがんとされています。現在、日本では年間約9,000人が子宮頸がん罹患し、約3,000人が死亡しています。(国立がんセンターがん対策情報センター調べ)

HPVはおもに性交渉によって感染するウイルスで、近年の初交年齢の低年齢化に伴い、20～30代での子宮頸がんの発症が急激な増加傾向を示しており、学童期におけるワクチン接種や定期的な検診による早期発見の必要性が謳われています。

本検査は、液状細胞診(LBC:Liquid Based Cytology)検体よりDNAを抽出し、子宮頸がん発症に関与するとされている高リスク型HPV遺伝子の網羅的な測定に加え、高リスク型の中でも特に子宮頸がんへの進展リスクの高い2種類の型(16型及び18型)については、その型別同定も行うことから、従来のHPV検査と比べ臨床的な有用性がより高いという特徴があります。

◆参考文献

三浦 俊昭, 他:医学と薬学, 69(1), 157～162, 2013.

◇容器写真



SurePath専用容器